6日　月曜

ヨハネ

2:1 それから三日目に、ガリラヤのカナで
婚礼があり、そこにイエスの母がいた。
2:2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれ
ていた。
2:3 ぶどう酒がなくなると、母はイエスに向
かって「ぶどう酒がありません」と言った。
2:4 すると、イエスは母に言われた。「女の
方、あなたはわたしと何の関係がありますか。
わたしの時はまだ来ていません。」
2:5 母は給仕の者たちに言った。「あの方が
言われることは、何でもしてください。」
2:6 そこには、ユダヤ人のきよめのしきたり
によって、石の水がめが六つ置いてあった。
それぞれ、二あるいは三メトレテス入りのも
のであった。
2:7 イエスは給仕の者たちに言われた。「水
がめを水でいっぱいにしなさい。」彼らは水
がめを縁までいっぱいにした。
2:8 イエスは彼らに言われた。「さあ、それ
を汲んで、宴会の世話役のところに持って行
きなさい。」彼らは持って行った。
2:9 宴会の世話役は、すでにぶどう酒になっ
ていたその水を味見した。汲んだ給仕の者た
ちはそれがどこから来たのかを知っていたが、
世話役は知らなかった。それで、花婿を呼ん
で、
2:10 こう言った。「みな、初めに良いぶどう
酒を出して、酔いが回ったころに悪いのを出
すものだが、あなたは良いぶどう酒を今まで
取っておきました。」
2:11 イエスはこれを最初のしるしとしてガリ
ラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。
それで、弟子たちはイエスを信じた。

Bible Reference
聖書の記述

2:12 その後イエスは、母と弟たち、そして
弟子たちとともにカペナウムに下って行き、
長い日数ではなかったが、そこに滞在され
た。

イエス様が一般的な生活をしておられたことがわかります。お母さんのマリアは新郎新婦の親戚であろうと思われます。お手伝いをしていたからです。イエス様が「あなたとわたしと何の関係がありますか。」と言われたのは、冷たい印象を持つかもしれませんが、それは訳の問題であって、イエス様が「女の方」と言われたのは、とても尊敬を表わしたことば使いでした。その証拠にマリアはその後にもイエス様に期待しています。

しもべたちが「水がめを縁までいっぱいにした」ことに注目しましょう。イエス様に期待して願うときには、それが満たされる必要があるのです。祈っても、すぐに終わらせてしまうのではなく、祈りを満たしましょう。十分に祈りましょう。主の時まで祈りを満たしましょう。そこに信仰が表されます。

イエス様は「しきたり」を喜びのお酒に変えました。まさに律法から恵への転換をイエス様がなしてくださったことの現れです。私たちも、律法的な生き方から、喜びの生き方に変えましょう。それにはイエス様の救いに感謝し、イエス様のみわざに期待することです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？